

瀬田東小学校

令和8年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校 目標】

心身ともにたくましく、ひととの交わりを大切に、新しいものを創り出そうとする子どもの育成
～学校を地域のハブとして位置付け、人・地域・社会とのつながりの中で子どもを育てる～

【現状と課題】

- 視点1 各々が考えを発表して終わる一方通行的な交流が多いため、対話をつなぐことで個々の児童が考えを広げたり深めたりしながら学びを深める「**協働的な学びの充実**」を図る必要がある。
- 視点2 発言する児童が固定化する傾向にあるため、互いを認め合い、安心して自分の考えを発言できる「**支持的な学級風土づくり**」の**追究**が必要である。
- 視点3 授業研究が授業公開時のみの一過性のため、全教職員が年間を通して同じベクトルで授業改善に取り組むことで、児童の学力向上につなげる「**成果を伴う校内研究**」の**しくみづくり**が必要である。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】
※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合です。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①校内研究のテーマを「“つながり学び合う” 文学的文章の授業づくりの追究 」とし、全般的に「協働的な学びの充実」に取り組む。 ②学習の質の向上につながるよう1人1台端末を効果的に活用する。	①対話をつなぐことで、個々の児童が自分の考えを広げたり深めたりしながら学びを深めていたか。【児童の発言・ノート】		
	①学級の友だちとの対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。【児童アンケート】肯定的回答90%以上		
	②学校全体として、児童生徒の学びをより深めることを目的に、一人一台端末を効果的に活用することができたか。【情報化リーダーアンケート】肯定的回答80%以上		

【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「協働的な学び」の基盤である「 支持的な学級風土づくり 」に全校として取り組む。	①「支持的な学級風土づくり」に長けた教職員から実践事例を学ぶ機会を設ける。【年間5回実施】		
	①授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか。【児童アンケート】肯定的回答85%以上		

【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①全教職員が「協働的な学びの充実」に向けて授業改善に取り組む「 成果を伴う校内研究 」のしくみをつくる。	①「協働的な学び」の学習形態への理解を深めるため、「協働的な学び」の実践先進校より講師を招聘し、指導・助言を受ける。【年間4回実施】		
	①各学年ごとに文学的文章の教材研究会を実施する。【年間3回実施】		
	①校内研究会は、自らの授業力向上に有効だったか。【教職員アンケート】肯定的回答90%以上		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・5月、校内研究全体会で研究テーマおよび方向性を説明する際に、「学ぶ力向上策」についても説明・協議し、全教職員で取り組み内容の共通理解を図る。
- ・5月、各学年の研究推進委員で実践先進校を視察し、本校が目指すべき研究の方向性や取組等について検討を行う。
- ・6月からスタートさせる各学年からの公開授業の参観の視点を「対話をつなぐことで、個々の児童が自分の考えを広げたり深めたりしながら学びを深めていたか」とし、研究協議会で検証し、改善点について話し合う。
- ・各学年の教材研究会や学年会で、随時各自の取組について検証・改善を行う。
- ・年間4回、各学年の公開授業および夏季職員研修に、「協働的な学び」の実践先進校より講師を招聘し、指導・助言を受ける。
- ・2月、本年度の校内研究の成果と課題、次年度の方向性について協議する。

今年度の取組の成果と課題